

教授就任に際して

## ご挨拶

川口 周

2024年4月より数学教室に着任しました。この紙面をお借りし、同窓会会員の皆様にご挨拶申し上げます。

私は、京都大学理学部から同大学院理学研究科へ進学し、故丸山正樹先生のもとで博士（理学）を取得しました。大学院では、森脇淳先生と数理解析研究所の宮岡洋一先生にも個別セミナーを通じて薫陶を受けました。2000年に当教室の助手に採用され、2005年から2006年にかけてパリのジュシュー数学研究所とバルセロナの数学研究センターに1年弱滞在しました。2007年に大阪大学に准教授として異動し、2012年に当教室に准教授として着任しました。2015年に同志社大学に教授として異動し、2018年から2020年にかけてオックスフォード大学に1年半滞在しました。このたび、ご縁をいただきまして、当教室に戻ってまいりました。

私の専門は代数幾何で、有理数体（代数体）上の代数多様体とその周辺の研究をしています。特に、そのような代数多様体が自己写像をもつときに、代数点の自己写像に関する振る舞いなどについて研究してきました。今では代数力学系あるいは数論力学系とよばれる比較的新しい分野ですが、博士後期課程の学生だった頃の研究からその後の米国ブラウン大学のシルバーマン教授との共同研究などで、この分野の発展にいくばくなりとも貢献できたのは幸運なことでした。さて、有理数体上の代数多様体には、複素解析空間と各素数  $p$  に対して  $p$  進解析空間が付随しており、それらを同時に扱う幾何にアラケロフ幾何があります。私はアラケロフ幾何と解析的振率についても研究してきました。また、付随する  $p$  進解析空間の中には多面体的な図形（トロピカル多様体）が埋め込まれており、私は代数多様体とトロピカル多様体の関係についての研究にも取り組んでいます。

私が大学に入学した頃と比べますと多くのことが変わりましたが、京都大学の数学教室が教育と研究に関して果たす役割の重要性はこれからも変わらないと思います。もとより微力ではありますが、当教室に貢献していけるよう努力を重ねる所存です。同窓会会員の皆様方には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。